

1 キリスト教教理入門

- 1 1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪

- 2 7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

2 第一部 神学をすること

- 1章 神についての研究
- 2章 キリスト教のメッセージを今日化すること

3 第2章 キリスト教のメッセージを今日化すること

1. 神学の今日的脈絡
2. キリスト教のメッセージの今日化へのアプローチ
3. キリスト教における不変の要素
4. 今日化の性質
5. 教理における永遠性の基準
6. まとめ

4 1. 神学の今日的脈絡

1. 神学の方法
2. 神学の短命化
3. 偉大なる学派の衰微
4. 神学的巨星の消滅
5. 福音主義神学 - 衰微を避ける
6. 文化との関係
7. 折衷主義
8. 独立性を維持する」

5 2. キリスト教のメッセージの今日化へのアプローチ

- 聖書時代の世界と現在の世界の比較
 - 天国と地獄は上下の関係なのか？
 - 聖書の真理を今日意味あるイメージで
1. 聖書概念を聖書の用語において
 2. メッセージの変革者
 3. メッセージの翻訳者」

6 3. キリスト教における不変の要素

1. 制度:カトリックの立場
 2. 経験:フォスディックの立場
 3. 行動・生き方:ラウシェンバッハの立場
 4. 教理:メイチェンの立場
- 教理的教えと道徳的行為の分離の問題
 - 教理的教えと経験の分離の問題

7 4. 今日化の性質

1. 不変:教理の本質的意味 - 今日的状况に適用
2. 1世紀の教理の本質 - 21世紀の等価訳
3. 永続的本質と一時的形式の区別

8 5. 教理における永遠性の基準

- 普遍的要素を特定するための基準
1. 文化を超えた不変性
 2. 普遍的背景
 3. 基盤として認識された普遍的要素
 4. 本質的経験との確固とした結びつき
 5. 漸進的啓示のうちでの最終的位置

9 6. まとめ

1. 穀物の殻と実を見分ける - そのすべてから意味を
2. 系図・公衆衛生のルール - 特別な陳述にも意味が
3. カトリックの神学者 - 教理の歴史を辿る
4. 最小の共通分母ではなく、聖書の陳述そのものから

10 IC[インフォメーション

- この講義はテープとMDで録音されており、必要な方にお分かちしています。関心のある方はご連絡ください。